

## 運動発達の遅れ

月齢に比して、運動発達がゆっくりだと感じたり、乳幼児健診で発達の遅れを指摘された場合。

### 運動発達の遅れの症状

- ・抱っこしたときに首が安定していない
- ・ずり這いやはいはいをしない
- ・お座りの姿勢が安定しない
- ・つかまり立ちをしない
- ・一人歩きをしない

### 望ましい対応

#### ① 首が安定していない

縦抱っこを多くしたり、うつ伏せで腋の下にバスタオルを入れて、首を上げやすくする。

#### ② ずり這いやはいはいをしない

うつ伏せの姿勢を嫌がらなければ、おもちゃに手をのばす動きを活用して、おへそを中心に体を回転させるように促す。回転が上手になればずり這いで前に進むようになる。ずり這いからははいはいに促すためには、低い段差を登ったり降りたりすることで、抗重力姿勢がとれて四つ這い位からははいいとなる。

#### ③ お座りの姿勢が安定しない

体幹が柔らかくお座りの姿勢ができないときは、腹部を丸めたバスタオルで支えてあげ、この姿勢で1日数回遊んでみる。体をそらしたり、足を突っ張りお座りの形ができないときは、股関節と膝関節を曲げると突っ張りがなくなるので、背面から支えてお座りの形をとり遊ぶ。

#### ④ つかまり立ちをしない

ずり這いやはいはいでつかまって立とうとする姿が見られたら、立たせる準備をする。膝立ちや立位の高さにおもちゃをおいて、膝立ちや立位の姿勢で遊ばせる。

#### ⑤ 一人歩きをしない

腋の下を支えたり、両手をもったり、片手をつないだり、指を握らせたりしながら、自然に手を放し一人で歩くのを待つ。

### 注意すべき対応

- ① 子どもが倒れたり、転んだりしないように目を離さないようにする。もしも倒れたときに怪我をしないように、周囲の環境に気をつける。
- ② あくまで子どもが楽しめる雰囲気で行い、子どもが嫌がることは無理強いしない。

**相談の場：医療機関、児童発達事業所、こども発達センター**

